

令和6年度 第3回 会津若松市中小企業・小規模企業 未来会議 要旨

日時：令和6年12月18日（水）13：00～14：50

場所：生涯学習総合センター（會津稽古堂）研修室6

1 開会

2 協議

会津大学短期大学部 産業情報学科 木谷准教授を座長として進行する。

①勉強会の振り返り

事務局より実施報告 17名の参加（うち郡山市中小企業及び小規模企業振興会議より4名）

株式会社SOLE代表取締役・上野さんの講演が非常によかった

- ・コミュニケーション手法が時代とともに変わり、新しくなっていることに気付くきっかけになった。
- ・企業側が社員の自己成長をしっかりとフォローすることで、転職や離職を防ぐことが出来ると思った。
- ・定期的に面談を実施することにより、入社時の想いの振り返りや、会社の「理念」の共有を行っており、個人の目標と現状の差の確認や会社の理想と個人の理想をすり合わせることに繋がっていると感じた。
- ・「お客様に対する思いや行動は、社員でもアルバイトでもすべて同じレベルが求められる」との考え方に共感した。
- ・「給与が発生する時間＝感動を与えるための仕事をしている時間」と定義されていたが、どの組織でも給与発生時間を何のための時間とするかは重要で、無駄な仕事が多いことは課題であると感じた。
- ・上司としての指導だけではなく、各個人の内発的な動機づけにつながるような働きかけが必要であると感じた。

グループワークで様々な意見を聞いたことが有意義であった

- ・インプットするだけでは成果物として残らない。アウトプットすることで事業に活かすことが出来ると思うので、講演を聞いて、その後にグループワーク(ワークショップ)を行うことはとても良い事だと感じた。
- ・自身は入社時に「見て覚える」ように指導されたが、後輩には「マニュアルはないのか」などと聞かれ、板挟みの状況という話があった。
 - マニュアルをすべて動画にし、全て見た後で業務に入るよう指導している企業もある。
 - 今の若い世代は、動画で情報を得ることが常識なので、動画のマニュアルの方が早く習得できることもあると思う。

- ・同じグループの方で、以前は関東圏で働いていたが、奥様の出身地という由縁で会津若松市に移住した方がいた。こうした移住就労・移住創業を支援していくべきであると考えている。

参加人数が少なかったことが課題

- ・どのように人を集めるのかが課題であると感じる。平日にやるのであれば18時頃の開始でないと都合がつかない方が多いと思う。
- ・テーマが人材育成であると人が集まりにくいかもしれない。事業承継も同様であり、各セミナーで苦労している。
- ・補助金の話など、得する話でないと集まらないのかもしれない。
- ・本気で人材育成に取り組みたいと考えていれば参加するはず。参加人数の多い少ないは気にすることなく良いことは続けていけばよいと思う。

今回郡山市と交流し、郡山市振興会議の会長も「郡山市との交流の継続、さらには福島市との交流もぜひ」とおっしゃっていたように、他地域と繋がっていく契機になったと感じている。

②最近の状況について

- ・飲食店の12月は繁忙期のため、ここに向けて約半年間準備してきた。繁忙期はリピーターを獲得する重要な機会。
 - 1月は閑散期、ここで採用と育成に時間をかけている。
- ・「ベこぶら」について、ネットニュースから情報を取っているようで、取材の依頼が多くある。テレビ局や雑誌などに無料で取り上げてもらうことが、広報に繋がっている。完成品を売るのではなく、作らせるという着目点が珍しくて良いとの評価を受けている。
 - 10店舗で販売予定であり、販路も拡大できている。
- ・ネットで自社商品が高値で転売をされており、モノの価格や価値観を考えさせられた。
- ・最近卓球場の運営を開始した。もともと知り合いだった経営者が、高齢化により廃業すると聞いたため、運営することとし、12月にオープンさせた。
- ・サービス業の事業者は、価格転嫁が難しいと聞いている（例えば、理美容室など）。また金利上昇の影響も大きいと聞く。今後も利子があがっていく可能性が高いことに危機感がある。借換件数も増えており、融資も何かに挑戦するための前向きなものではなく、事業をなんとか続けるためといった理由のことが多い印象である。
 - 持続化補助金が再開すれば事業者の支援策として使えると考えている。
- ・観光農業の面で、いちご農家に中国や台湾からの団体旅行が訪れていたが、現在は断っている。夏の猛暑が原因でいちごが不作とのこと。りんごも夏の猛暑に加え、秋・冬に気温が下がっていないので状況が良くない。

- ・会津地域において商品券発行や放射能検査のための組合の解散が続いている。大震災、コロナ禍を経てこれまでの企業連携、共同事業の在り方が変化している。高度成長、バブル期、さらにはバブル崩壊後の30年を経て企業活動について大きな変化が起きていることと関連性がある。
- ・企業活動の傾向として、活発的な企業は広域的な活動が必須であり、地域性ということにあまり拘らなくなってきた。
- ・行政からの発注案件について組合を通じて共同受注していく流れがある。発注機関における効率的な発注、地域内における経済循環という観点からも意義があるが、官製談合防止法などの法律改正などがなされていない。地方経済の状況を考えるに、これまで以上に官公需の分野が重要な位置を占めてくると思われるが、地域外に資金流出を防ぐ方法を同時に考えていかなければならない。

人手不足

- ・人手不足は多くの事業者の課題だが、タクシー会社では車両があるのに運転手がいらない、食堂でも席は空いていてもスタッフがいないので断るなど、事業に影響が出ていると聞く。
- ・当社では10名採用予定だったが現在7名の内定に留まっている。ほぼ会津地域の出身者である。
- ・店舗統廃合を計画的に進めている。店舗統合で窓口にかかる人員を減らし、外回り要員を多く配置することで、訪問が必要なケースに迅速に対応ができ、結果的にサービス面の向上が見込める。
- ・中途採用を随時しており、異業種からの転職者が即戦力となり活躍している。
- ・会津短大の2023年度卒業生の就職決定率は100%（経営情報コースは27人が就職。5人は進学）。福島県内は約6割。経営情報コースの就職希望は引き続き、地元志向が強い印象で会津出身の学生は会津に残るが、地域外出身の学生は地元に戻る傾向が強い。
→今年も順調に進路が決定している模様。短大全体では、就職決定率は99%で、県内は約6割。

各機関の取組

○会津大学短期大学部

- ・経営情報コースの学生たちが「第3回會津ジュニアブレイザーズカップ2024(11/23.24)」の企画、運営に参加した。
- ・12/11(水)に未来館トークサロン in 会津大学短期大学部「女性議員と話そう」を実施した。
- ・会津コインの取り組みについて、「地域経済学」の授業内でTIS株式会社が講義を実施した。
- ・10月の学園祭は通常通り実行した。雨天ということもあり、コロナ5類移行後初となった昨年度に比べて入場者数は大きく減った印象。

○福島県中小企業家同友会会津支部

- ・ 全県企業家フォーラムが福島市で開催され、分科会で菓子問屋を事業とする企業のオフィスを見学。オフィスをIT企業のようなデザインにし、フリーアドレス制を導入、キッチンやソファも設置していて、その様子をSNSやHPで発信することで人材の確保に繋がっているとのこと。
- ・ 食農工委員会では、現在第2弾ピーナッツ担々麺スタンプラリー企画を開催中。
- ・ DXチームは引き続きアクセンチュアと会津大学生と共にリ・スキリングを進めている。新たに会津大学生が企業に英語を教えるというマッチング事例があった。以前紹介した自動車会社のシステムを開発した学生(報酬が自動車の利用権)は、システムに愛着が湧いているようだ。これほど自由度の高い仕事はなかなかないと思うので、学生に楽しかった経験として強く残ると思う。若者は、今は東京に行きたいと考えると思うが、会津の中小企業でシステムを構築した記憶が必ず残っていて、十分に戻ってくるきっかけになると思うので、企業と学生の接点を作ることを継続していきたい。
- ・ 宮城県、舞台ファームの工場を見学した。畑のロボット化を行っている企業であり、種まきの段階から土入りポットがベルトコンベアに乗っており、温度管理や水管理などの工程がすべて自動化されている。虫がいないので農薬が不要であり、品質の管理がしやすく、安定供給が可能。最初の設置と最後の収穫、微調整のみ人の手で行われているが、主に外国人労働者が担っている。

○会津商工信用組合

- ・ 10月にM&Aが1件成立した。売り手、買い手、双方とも会津地域内の事業者で株式譲渡を行った。80代経営者が事業を承継する先を探しており、同じ事業をしていた事業者がこの事業者の株式を購入し、前事業者も今後3年間在籍することで、顧客の引継ぎを行っている。また、事業の拡大に伴い収益増も見込まれる。M&Aの相談は増えており、まずは会津地域内で継承できるよう買い手を探すようにしている。
- ・ 12月4日(水)日本政策金融公庫、信用保証協会と合同で創業ステップアップセミナー・交流会を開催。56名が参加した。

○会津信用金庫

- ・ 経営支援を行う家族経営の居酒屋で、4月からよろず支援拠点の支援を受け、5月から経営がV字回復したという好事例があった。
- ・ 11月30日と12月1日の2日間、アウトオブキッズニアに参加し、小学生29名の職業体験を受け入れ、好評であったと思う
- ・ 12月3日から2日間、本店営業部においてチャリティバザーを実施。全店舗の職員が持ち寄った商品を販売し、販売代金約11万円を社会福祉協議会に寄付した。
- ・ 12月3日から2日間、東京ビッグサイトで実施された城南信金主催の「よい仕事おこしフェア(全国の信用金庫取引先530社出店)」に当金庫お取引先4社出店。3日には、10月に会津坂下町の曙酒造で47都道府県米を使って仕込んだ日本酒【絆舞】の鏡開きも行われた。

○会津若松商工会議所

- ・11月9.10日、会津若松市中心市街地活性化協議会主催の「会津まちなかふれあい市」を神明通りのスーパー跡地で開催。両日とも天候に恵まれ、来場者数は2日間で5,200人超となった。来場者は比較的若い世代が多い印象で、今回は一過性のイベントではあったものの、中心市街地にも人が来るということがわかった。来場者・出店者それぞれのアンケートでも、今後街なかでのイベント開催などを望む声も多く、次年度以降の取組の参考となった。引き続き、市やまちづくり会津と連携し取り組んでいく。

○会津若松商工会議所青年部

- ・12月7日をもってジュニアエコノミーカレッジの今年度の活動がすべて終了。
- ・11月15、16日と商工会議所青年部の全国会長研修会が郡山市で開催され、約2,000人が集まった。研修会では前県知事佐藤雄平氏の講演「震災時のリーダーシップ」、懇親会、会長向け座学研修が行われ、研修では、各地の青年部の課題や会員数の減少、アクティブ率について話し合いを行った。
- ・県青年部連合会の事業で3泊4日のベトナム視察に参加した。JETRO、東邦銀行よりベトナムバンクに出向している方の講話、須賀川市のガラスレンズ製造会社の現地工場視察を実施するなど、充実した視察であった。

○会津青年会議所

- ・青年会議所では、来年も2月7、8日に絵ろうそくまつりを運営する予定であり、現在準備に取り組んでいる

③ごみ問題について

(前回の未来会議で各事業所におけるゴミの処理方法を確認してくることとなっていた。)

ごみは分別して回収業者に回収してもらう事業所が多数、その後のリサイクルについては業者に任せている。

好事例など

- ・ダンボール、空き缶、茶袋を、自社の分と知り合いの会社の分を集めている。集まったものは2週間に1度、自立支援事業所が回収に来ている。知り合いの会社では、ダンボール等が多くて処理に困っているという話で、自分が配達の帰りなどに寄り、持って帰ってきて、まとめて提供する。社会貢献としてやっている。
- ・飲食業の店舗だと、仕入れるものの多くがダンボールに入って届く。過剰包装をやめるなど、そもそもゴミを出さない工夫を売る側がすることや、買う側の意識も大事だと思う。
→10年程前には、ほぼダンボールに入って届いていたが、最近は保冷袋やプラスチックの箱に商品を入れてきて、次の仕入れの際に袋や箱だけ回収していくという取り組みをする業者も増えている。

- ・食品ロスをなくすため、焼くだけなどでは活用できない部分も調理方法を工夫し、提供できるようにしている。
- ・雑誌やチラシ、段ボールなどはある程度溜まったらアマルクの回収場所へ持っていつている。
- ・シュレッターゴミのみ事業所で保管し、荒川産業が定期的に収集、トイレットペーパーにリサイクルする流れとなっている（フクメグリ事業）。
 - シュレッターゴミ自体が、1～2ヶ月に45ℓゴミ袋1つ程度で、単独で保管・回収を依頼するのは難しい。
 - タブレット端末が貸与され会議資料を紙で出さないようになり紙の削減が進んでいる。
 - ⇨見えにくい文字等もあり、業務効率化になっているのか不明である。

課題など

- ・古紙で出せるものを燃えるゴミに入れるなど、ひとりひとりの意識も足りていない。
- ・学生は分別を行う意識が低いようだ。
 - 一方で環境問題が改善するならゴミ袋の有料化に賛成する若者が多い。
 - ごみ問題を研究する学生もいて、ゴミ袋の有料化をしていないことはゴミが減らない原因のひとつだと考えている。
- ・事業系一般廃棄物については市の働きかけが重要である。市内事業系一般廃棄物の排出状況を調査し、生活系と混在している物については適正な排出の呼びかけを行うとともに、一段上の処置を行う。
- ・家庭ごみでいえば、生ごみを減らすことが重要である。
 - 生ごみを自宅で堆肥化し、畑で活用している。
 - 畑は持たない家庭も多く難しいがキエー口の活用を進めるべき。
 - ⇨臭いなどの公害問題との兼ね合いも懸念点である。
- ・懇親会等で食事が多く余ることがよくあり、食品ロスが問題だと感じる。
 - ⇨食べきれない位の量の方が顧客満足度につながるため、非常に難しい課題である。
 - 持ち帰れるような体制をとっている。
 - フードロス削減というように道徳観に訴えるのではなく、進んでいるかっこいい取り組みという印象になれば進んでいくかもしれない。

3 その他

4 閉会